

2023年度第2四半期決算概要 および2023年度業績予想

2023/8/7



住友重機械工業株式会社

社長 下村 真司

I N D E X

- 01 2023年度第2四半期決算概要
- 02 2023年度業績予想
- 03 トピックス
- 04 サステナビリティへの取り組み
- 05 次期中期経営計画の方向性

01

2023年度第2四半期決算概要

01

2022年度決算期変更について

2023年				
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
国内	1Q	2Q	3Q	4Q
	2023年度上期		2023年度下期	
	2023年度 国内 12力月			
海外	1Q	2Q	3Q	4Q
	2023年度上期		2023年度下期	
	2023年度 海外 12力月			
【参考】	2022年（調整前）			
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
国内		1Q(調整前)	2Q(調整前)	3Q
	2022年度 国内 9力月			
海外	1Q (調整前)		2Q (調整前)	3Q
	2022年度 海外 12力月			
	2Q(調整後)			

2023年度 第2四半期 実績

/前年同期(調整後)、
(増減)

受注高 : 5,127億円 / 5,810億円 (△683億円)

売上高 : 5,101億円 / 4,784億円 (317億円)

営業利益 : 307億円 / 299億円 (7億円)

前年同期比

- ・ **受注高** : 市場環境は、北米が堅調な一方で、国内の軟化や中国が減退。半導体関連の需要減、エネルギー関連の案件減により受注減。
- ・ **売上高** : エネルギー&ライフラインが工事進捗差により減少もほかセグメントは豊富な受注残から生産制約の緩和もあり売上増。
- ・ **営業利益** : 販管費の増加やエネルギー&ライフラインの売上減があるもメカトロニクスや油圧シヨベルの売上増、為替の好転により微増。

01

2023年度 第2四半期 決算概要

	2022年度			2023年度			23上-22上 増減
	1Q(1-3月) 調整後 実績	2Q(4-6月) 調整後 実績	上期 実績	1Q(1-3月) 実績	2Q(4-6月) 実績	上期 実績	
単位：億円							
受注高	2,816	2,994	5,810	2,600	2,527	5,127	△683
売上高	2,473	2,311	4,784	2,482	2,618	5,101	317
営業利益	170	130	299	162	145	307	7
営業利益率	6.9%	5.6%	6.3%	6.5%	5.5%	6.0%	-
経常利益	179	143	322	164	165	329	7
経常利益率	7.2%	6.2%	6.7%	6.6%	6.3%	6.4%	-
特別損益	△21	5	△16	△1	△2	△3	13
親会社株主純利益	109	98	208	108	117	225	17
親会社株主利益率	4.4%	4.3%	4.4%	4.4%	4.5%	4.4%	-
1株当たり配当			45円			60円	
為替レート(ドル)			¥132			¥136	-

01

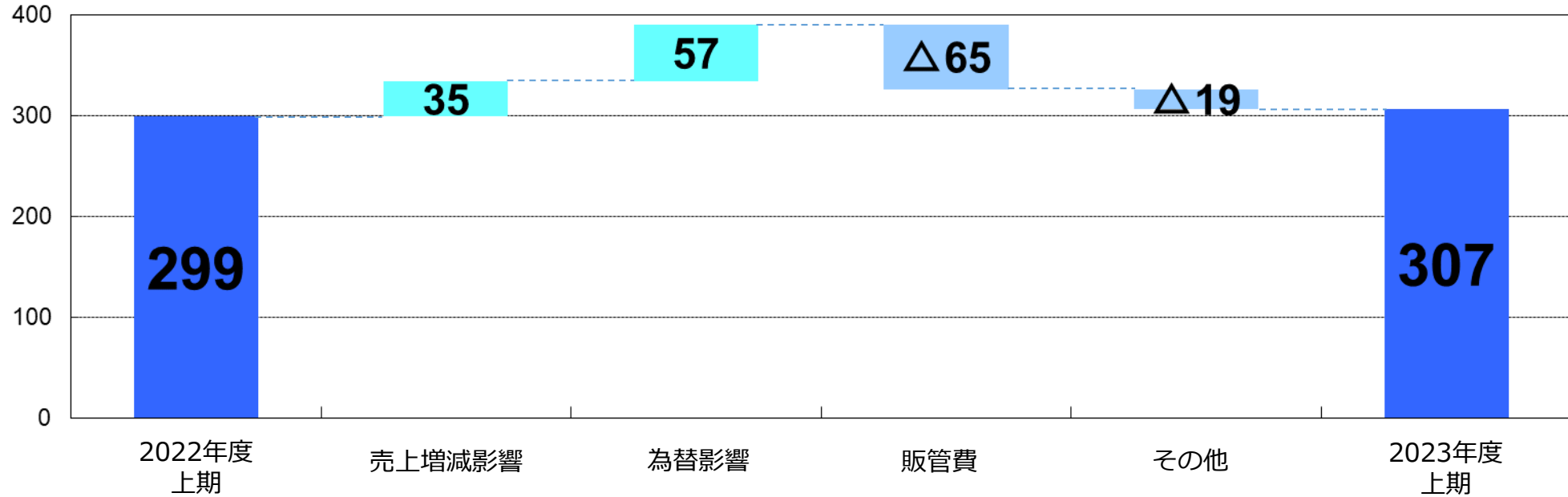
2023年度 第2四半期 セグメント別業績

	受注高			売上高			営業利益				
	2022年度 上期 (調整後) 実績	2023年度 上期 実績	増減	2022年度 上期 (調整後) 実績	2023年度 上期 実績	増減	2022年度 上期 (調整後) 実績 /営業利益率(%)	2023年度 上期 実績 /営業利益率(%)	増減		
単位：億円											
メカトロニクス	1,102	1,057	△45	916	1,069	154	23	2.5	58	5.5	35
(プラスチック加工機械)	520	432	△88	476	509	33					
(その他)	1,221	973	△249	758	830	72					
インダストリアル マシナリー	1,741	1,405	△336	1,234	1,339	104	113	9.2	112	8.4	△1
(油圧ショベル)	1,189	1,130	△59	991	1,125	134					
(その他)	747	841	95	684	724	39					
ロジスティクス & コンストラクション	1,936	1,972	35	1,676	1,849	173	95	5.7	123	6.7	28
エネルギー&ライフライン	1,001	664	△338	929	813	△115	53	5.8	4	0.5	△50
その他	29	29	1	29	30	1	14	-	9	-	△5
合計	5,810	5,127	△683	4,784	5,101	317	299	6.3	307	6.0	7

01

2023年度 第2四半期 営業利益増減分析

単位：億円



<売上増減影響 セグメント別内訳>

単位：億円

メカトロニクス	25
インダストリアル マシナリー	10
ロジスティックス&コンストラクション	27
エネルギー&ライフライン	△27

<販管費>

・人件費、研究開発費および経済活動再開に伴う経費が増加

<その他>

・原材料、調達品価格上昇と価格転嫁による改善の差額 +40億円

・エネルギープラントの売上減や欧州での個別プロジェクト採算悪化 △20億円

・その他のほかの部門による悪化 △35億円 など

01

連結貸借対照表

- 棚卸資産：受注残の増加および部品供給遅れ等による
リードタイム長期化の影響により増加。
- 有形固定資産：設備投資の継続により増加。

- 純資産：利益剰余金が171億円増加。
円安に伴い為替換算調整勘定が254億円増加。

単位：億円	2022/12末	2023/6末	増減
流動資産	7,114	7,423	310
現預金	975	908	△67
売上債権	3,003	2,967	△36
棚卸資産	2,755	3,223	468
その他	381	326	△55
固定資産	4,375	4,611	236
有形固定資産	3,201	3,348	147
無形固定資産	566	597	31
投資その他の資産	608	667	59
資産合計	11,489	12,035	546

単位：億円	2022/12末	2023/6末	増減
負債	5,719	5,835	115
買掛債務	1,863	1,850	△13
有利子負債	1,608	1,629	22
その他	2,249	2,355	106
純資産	5,769	6,200	431
株主資本	4,685	4,856	171
その他の包括利益累計額	1,008	1,262	254
非支配株主持分	77	82	6
負債・純資産合計	11,489	12,035	546
ネット有利子負債比率	5.5%	6.0%	0.5%
自己資本比率	49.5%	50.8%	1.3%

01

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：億円

区 分	2023年度 上期
営業活動	209
税金等調整前当期純利益	326
減価償却費	175
運転資本	△307
その他（税金等）	15
投資活動	△214
（フリーキャッシュ・フロー）	△5
財務活動	△79
現金・現金同等物増減	△70
現金・現金同等物期末残高	867

■ 営業キャッシュ・フロー

売上債権は減少したものの棚卸資産が増加。

■ 投資キャッシュ・フロー

高水準の投資を継続。

■ キャッシュ・フロー 指標トレンド

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 上期
フリー キャッシュ・ フロー（億円）	2	△215	204	120	△159	△5
債務償還年数 （年）*1	1.3	3.4	1.9	1.8	7.5	
インタレスト・ カバレッジ・ レシオ（倍）*2	51.2	30.5	66.2	81.8	20.0	

*1 有利子負債÷営業キャッシュ・フロー

*2 営業キャッシュフロー÷利払い

02

2023年度業績予想

02

2023年度 業績予想

2023年度
予想/前回予想(23年2月時点)、
(増減)

受注高 : 10,550億円 / 10,800億円 (△250億円)

売上高 : 10,750億円 / 10,500億円 (250億円)

営業利益 : 640億円 / 640億円 (-)

前回予想
(23年2月時点)比

- ・ 受注高 : 北米市場は堅調も中国市場は減速。半導体関連の回復遅れなどによりインダストリアル マシナリーを中心に減少。
- ・ 売上高 : ロジスティックス&コンストラクションにて生産制約の解消が進み受注残を売上に繋げ増加。
- ・ 営業利益 : 一部の機種で調達品の価格上昇の影響等が残り、前回予想を据え置き。

トピック・
市況認識

- 製造業を中心に設備投資は全般的に弱含み。
- 調達価格上昇に対しては価格転嫁を図り、一定レベルの採算改善。
- サプライチェーン制約は和らぐも、一部の機種で引き続き影響が残る。
- 地政学上や、過度な為替相場の変動などのリスクあり。

02

2023年度 業績予想

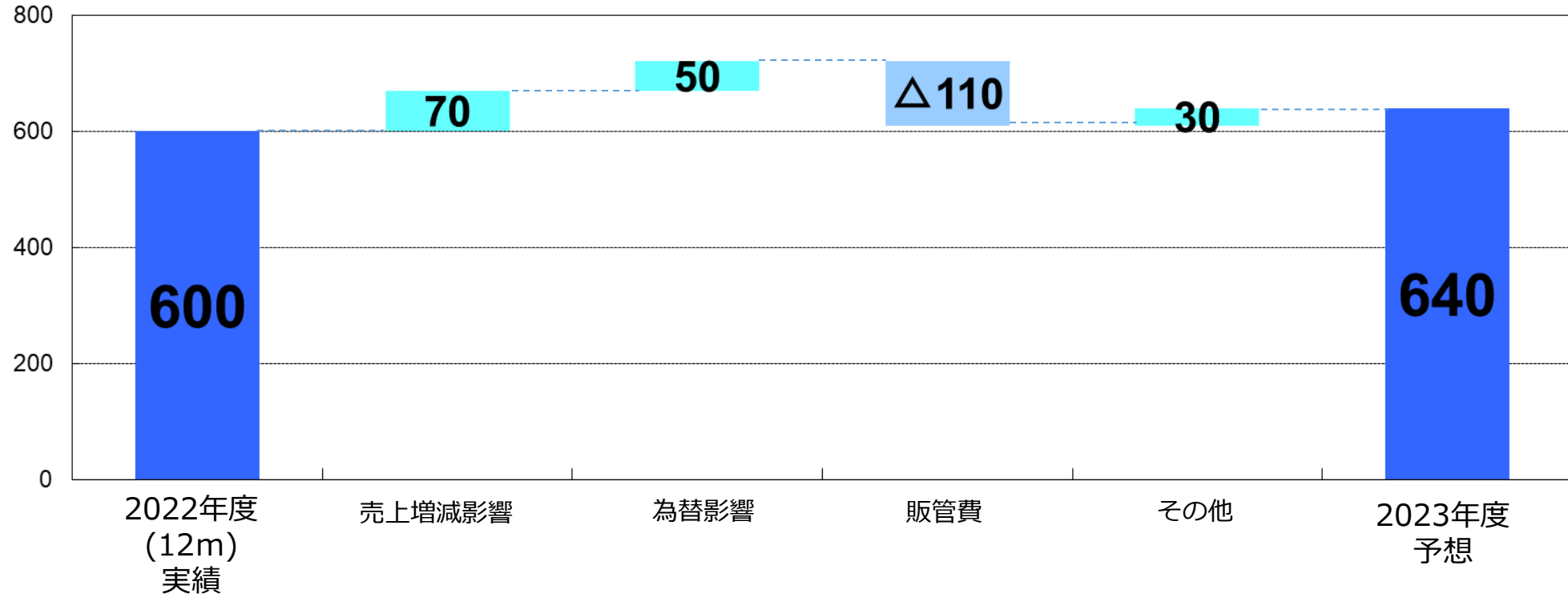
単位：億円	2022年度 上期 実績 (2022.1-2022.6)	2023年度 上期 実績 (2023.1-2023.6)	2022年度 実績 (2022.1-2022.12)	(参考)2023年度 予想(23年2月時点) (2023.1-2023.12)	2023年度 予想(23年8月時点) (2023.1-2023.12)
受注高	5,810	5,127	11,648	10,800	10,550
売上高	4,784	5,101	10,183	10,500	10,750
営業利益	299	307	600	640	640
営業利益率	6.3%	6.0%	5.9%	6.1%	6.0%
経常利益	322	329	588	600	600
経常利益率	6.7%	6.4%	5.8%	5.7%	5.7%
特別損益	△16	△3	△276	△20	△20
親会社株主純利益	208	225	163	380	380
親会社株主利益率	4.4%	4.4%	1.6%	3.6%	3.6%
1株当たり配当	45円	60円	*1 90円	120円	120円
配当性向			*1 190.8%	38.7%	38.7%
ROIC(税引後)			6.2%	6.1%	6.0%
【参考】ROE			3.0%	6.5%	6.5%
為替レート(ドル)	¥132	¥136	¥133	¥125	¥130

*1 9カ月実績

02

2022年度／2023年度 営業利益増減分析

単位：億円



<増収効果 セグメント別内訳>

単位：億円

メカトロニクス	30
インダストリアル マシナリー	20
ロジスティックス&コンストラクション	40
エネルギー&ライフライン	△20

<販管費>

人件費、研究開発費および経済活動再開に伴う経費が増加

<その他>

原材料、調達品価格上昇影響と
価格転嫁による改善の差額 +50億円 など

02

2023年度 セグメント別業績予想

		受注高			売上高			営業利益					
		2023年度 上期 実績	(参考) 2023年度 予想 (23年2月時点)	2023年度 予想 (23年8月時点)	2023年度 上期 実績	(参考) 2023年度 予想 (23年2月時点)	2023年度 予想 (23年8月時点)	2023年度 上期 実績 /営業利益率(%)		(参考)2023年度 予想 (23年2月時点) /営業利益率(%)		2023年度 予想 (23年8月時点) /営業利益率(%)	
単位：億円													
メカトロニクス		1,057	2,200	2,180	1,069	2,150	2,190	58	5.5	95	4.4	105	4.8
	(プラスチック加工機械)	432	1,090	960	509	1,100	1,000						
	(その他)	973	1,970	1,840	830	1,830	1,810						
インダストリアル マシナリー		1,405	3,060	2,800	1,339	2,930	2,810	112	8.4	295	10.1	255	9.1
	(油圧ショベル)	1,130	2,170	2,260	1,125	2,300	2,490						
	(その他)	841	1,460	1,520	724	1,370	1,440						
ロジスティックス & コンストラクション		1,972	3,630	3,780	1,849	3,670	3,930	123	6.7	165	4.5	205	5.2
エネルギー&ライフライン		664	1,820	1,690	813	1,720	1,780	4	0.5	80	4.6	65	3.6
その他		29	90	100	30	30	40	9	-	5	-	10	-
合計		5,127	10,800	10,550	5,101	10,500	10,750	307	6.0	640	6.1	640	6.0

02

メカトロニクス

23上期：受注は、変減速機やモータの需要が、欧米での顧客の在庫調整の影響や中国での市況の低迷により停滞したことから減少。

売上、営業利益は受注残があったことから増加。

23年度：受注は、地域、機種によるバラつきがあるも、ほぼ前年並。

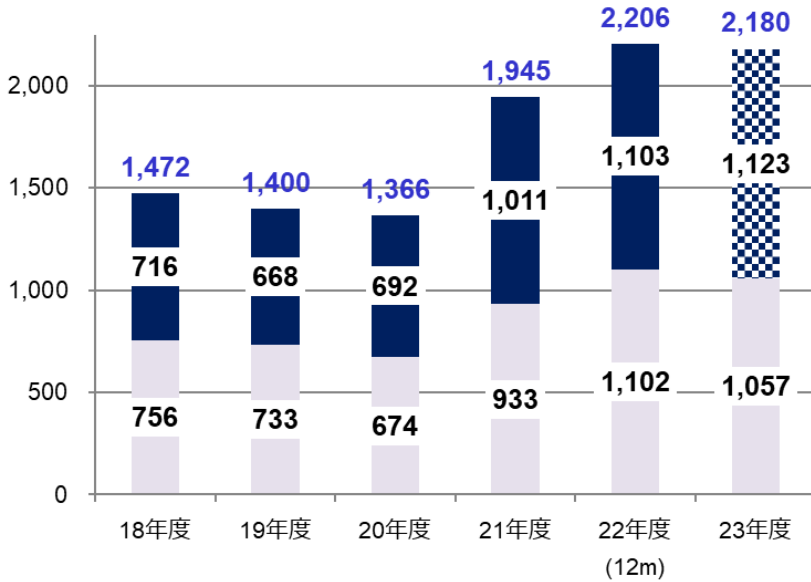
売上、営業利益は、受注残があり増加を見込む。

	2022年度		2023年度				23上-22上 増減
	上期 実績 (22.1-22.6)	実績 (22.1-22.12)	上期 実績 (23.1-23.6)	(参考)23年2月 予想 (23.1-23.12)	23年8月 予想 (23.1-23.12)	予想 増減	
単位：億円							
受注高	1,102	2,206	1,057	2,200	2,180	△20	△45
売上高	916	1,979	1,069	2,150	2,190	40	154
営業利益	23	92	58	95	105	10	35
営業利益率 (%)	2.5	4.6	5.5	4.4	4.8	-	-
受注残高		1,135	1,123				

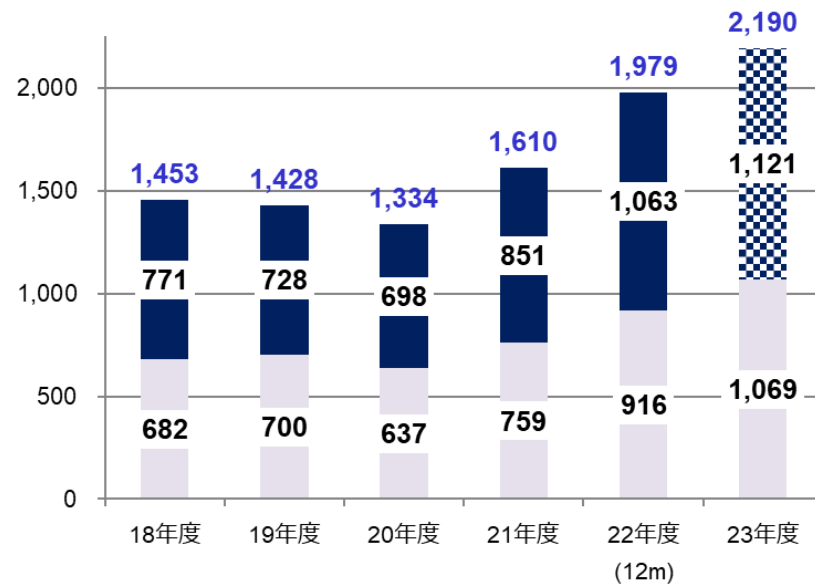
02

メカトロニクス

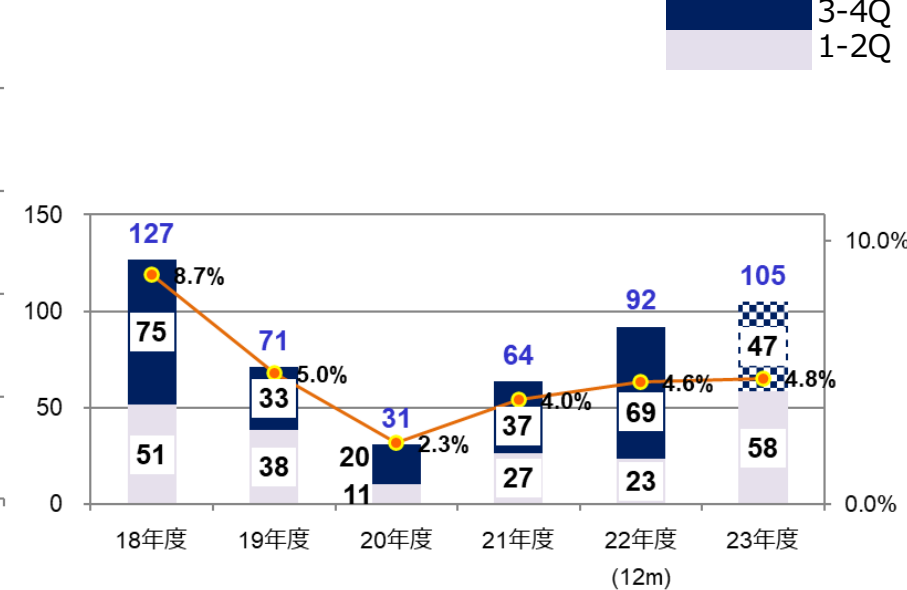
受注高



売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)



<参考>

・変減速機 機種別売上構成（概数）

	ギヤモータ (中型)	ギヤボックス (大型)	精密用途 (MCD)	サービス	電機制御	合計
2023年度 上期	40%	20%	10%	10%	20%	100%
2022年度	40%	20%	10%	10%	20%	100%
2021年度	40%	20%	10%	10%	20%	100%

02

インダストリアル マシナリー

<プラスチック加工機械>

2 3 上期：受注は、中国で電気電子関連の需要が停滞し、国内や欧州の投資の冷え込みにより減少。

売上は、受注残があったこともあり増加したものの、営業利益は、資材費上昇の継続により減少。

2 3 年度：下期から徐々に市況の回復を見込むも、受注、売上、営業利益とも減少。

<その他>

2 3 上期：受注は、半導体市況軟化に伴う顧客の在庫調整や投資先送りの影響等を受け減少するも

売上、営業利益は、受注残が高い水準であったこともあり増加。

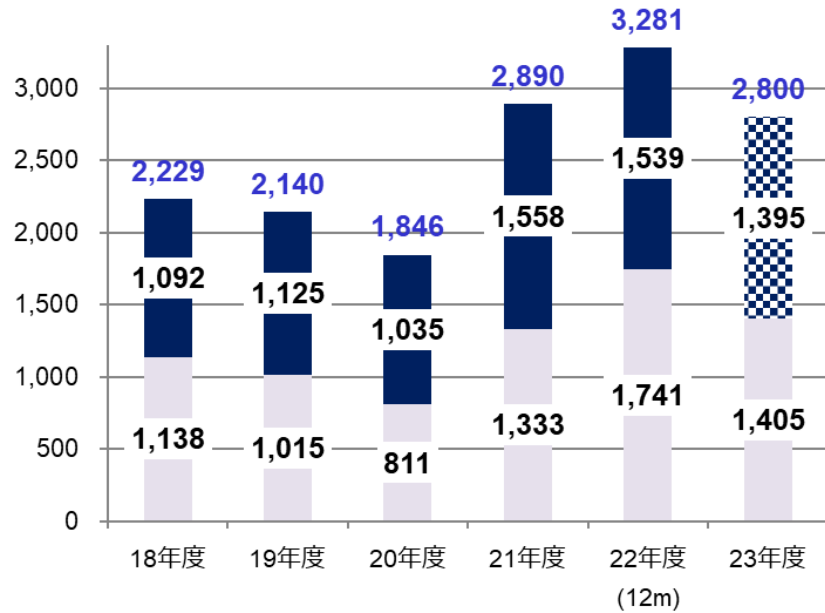
2 3 年度：受注は、半導体関連顧客の在庫調整の影響が継続し減少。売上、営業利益は、受注残があり増加。

単位：億円	2022年度		2023年度				23上-22上 増減
	上期 実績 (22.1-22.6)	実績 (22.1-22.12)	上期 実績 (23.1-23.6)	(参考)23年2月 予想 (23.1-23.12)	23年8月 予想 (23.1-23.12)	予想増減	
プラスチック加工機械	520	1,071	432	1,090	960	△130	△88
その他	1,221	2,210	973	1,970	1,840	△130	△249
受注高	1,741	3,281	1,405	3,060	2,800	△260	△336
プラスチック加工機械	476	1,065	509	1,100	1,000	△100	33
その他	758	1,578	830	1,830	1,810	△20	72
売上高	1,234	2,643	1,339	2,930	2,810	△120	104
営業利益	113	265	112	295	255	△40	△1
営業利益率 (%)	9.2	10.0	8.4	10.1	9.1	-	-
受注残高		1,946	2,013				

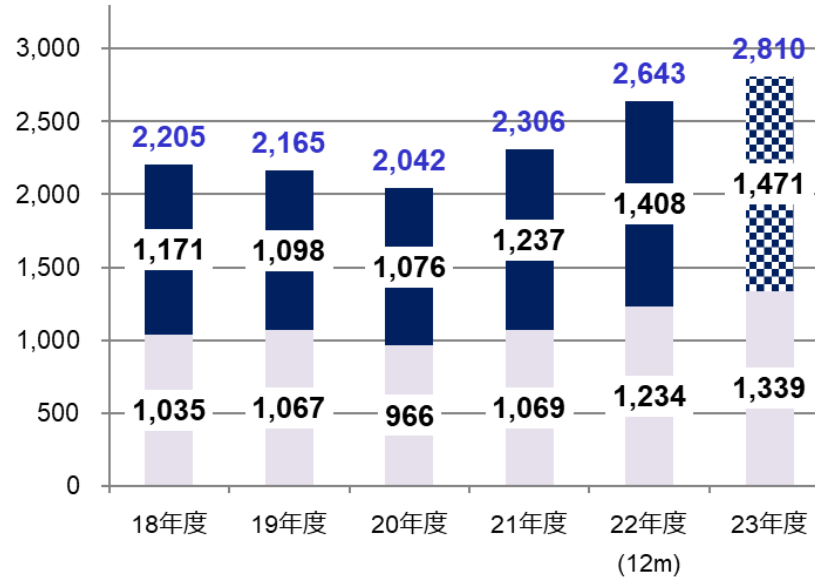
02

インダストリアル マシナリー

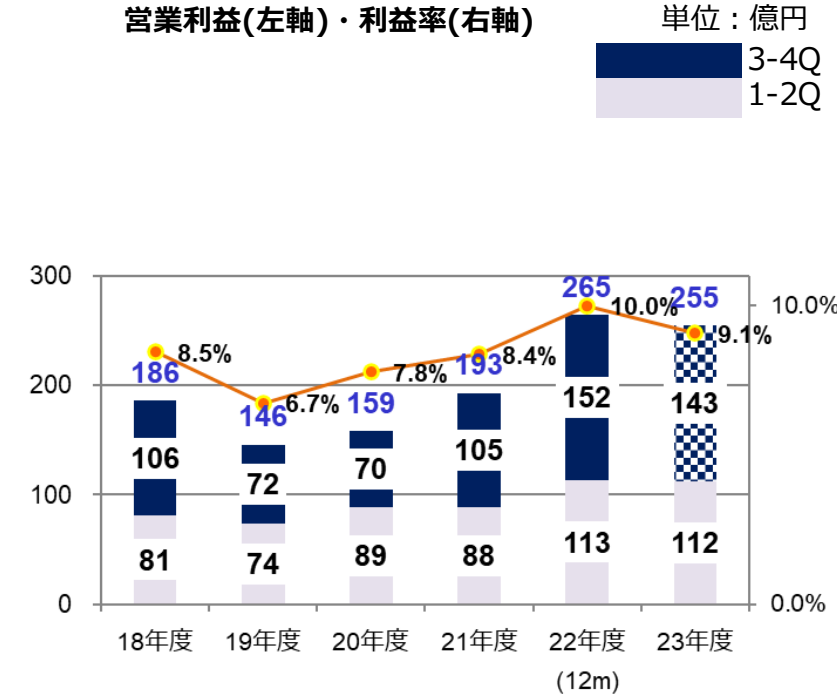
受注高



売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)



<参考>

・射出成形機 売上業種別構成 (概数)

	電気・電子 関連	自動車	医療・食品 容器・雑貨	その他	合計
2023年度 上期	20%	20%	50%	10%	100%
2022年度	20%	15%	50%	15%	100%
2021年度	25%	15%	45%	15%	100%

・半導体製造装置 (イオン注入装置) 業績 (概数)

	2021年 実績	2022年度		2023年度	
		上期 実績 (22.1-22.6)	実績 (22.1-22.12)	上期 実績	予想
受注	380	410	660	350	510
売上	240	250	500	210	500

02

ロジスティックス&コンストラクション

<油圧ショベル>

23上期：受注は、北米での先行発注の反動などにより減少したものの、売上、営業利益は受注残があったことから増加。

23年度：受注は、先行発注の反動などにより減少。売上は、生産制約の解消が進むことから増加。営業利益は、資材費上昇の影響があるも微増。

<その他>

23上期：建設用クレーンは、北米の需要が底堅く推移したことから受注、売上は増加した一方、資材費上昇の影響があり、営業利益は減少。

また、産業用クレーンは、サービス案件が減少したことから受注は減少したものの、受注残があったこともあり、売上は増加。

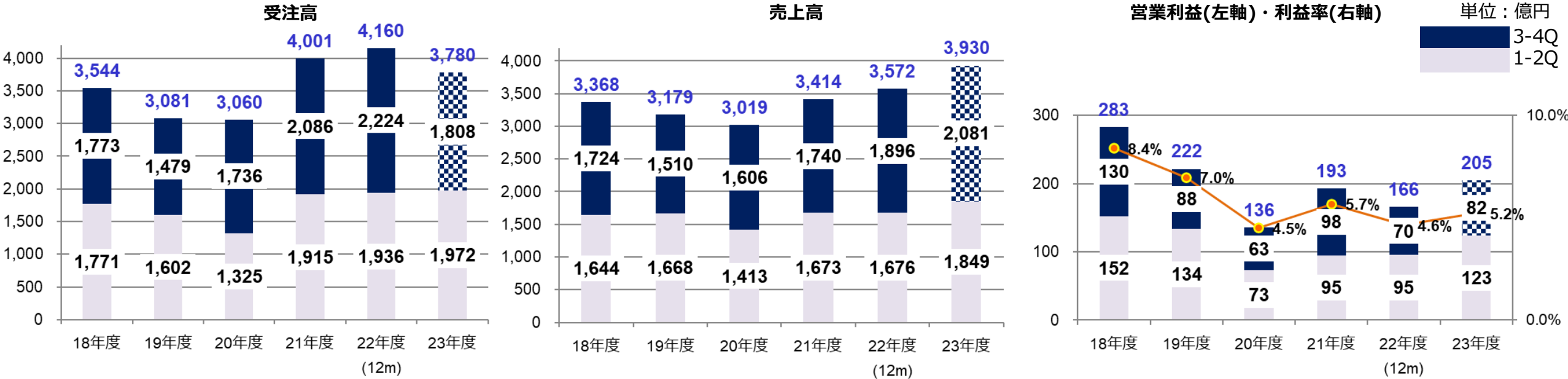
営業利益は、機種構成差により減少。

23年度：建設用クレーンが北米で伸長するが、産業用クレーンの減少により、受注、売上、営業利益とも減少

単位：億円	2022年度		2023年度				23上-22上 増減
	上期 実績 (22.1-22.6)	実績 (22.1-22.12)	上期 実績 (23.1-23.6)	(参考)23年2月 予想 (23.1-23.12)	23年8月 予想 (23.1-23.12)	予想増減	
油圧ショベル	1,189	2,558	1,130	2,170	2,260	90	△59
その他	747	1,602	841	1,460	1,520	60	95
受注高	1,936	4,160	1,972	3,630	3,780	150	35
油圧ショベル	991	2,114	1,125	2,300	2,490	190	134
その他	684	1,458	724	1,370	1,440	70	39
売上高	1,676	3,572	1,849	3,670	3,930	260	173
営業利益	95	166	123	165	205	40	28
営業利益率 (%)	5.7	4.6	6.7	4.5	5.2	-	-
受注残高		2,548	2,671				

02

ロジスティクス&コンストラクション



<参考>

・油圧ショベル 地域別需要/売上高推移 (概数)

油圧ショベル

地域別需要/売上高推移（概数）

※外資のみ

単位：万台(上段)/億円(下段)			北米	欧州	アジア (除く中国)	中国※	日本	その他	合計
2023年度	需要予想		4.1	4.0	2.5	1.0	2.7	-	1,125
	売上高	上期	356	119	133	34	396	88	
2022年度	需要		4.2	4.2	2.6	2.2	2.6	-	991
	売上高	上期	262	72	148	72	359	78	
		通期	533	139	304	134	543	127	1,780
2021年度	需要		4.0	3.8	2.4	4.9	2.7	-	1,773
	売上高	通期	416	123	242	318	561	111	

・産業用クレーン 業種別受注構成 (概数)

	電力	鉄鋼	造船	港湾	その他	合計
2023年度 上期	0%	35%	15%	20%	30%	100%
2022年度	20%	30%	30%	10%	10%	100%
2021年度	40%	25%	15%	10%	10%	100%

・建設用クレーン (国内) 業績 (概数)

単位：億円	2021年 実績	2022年度		2023年度	
		上期 実績 (22.1-22.6)	実績 (22.1-22.12)	上期 実績	予想
受注	300	180	360	220	400
売上	210	190	340	200	420

02

エネルギー＆ライフライン

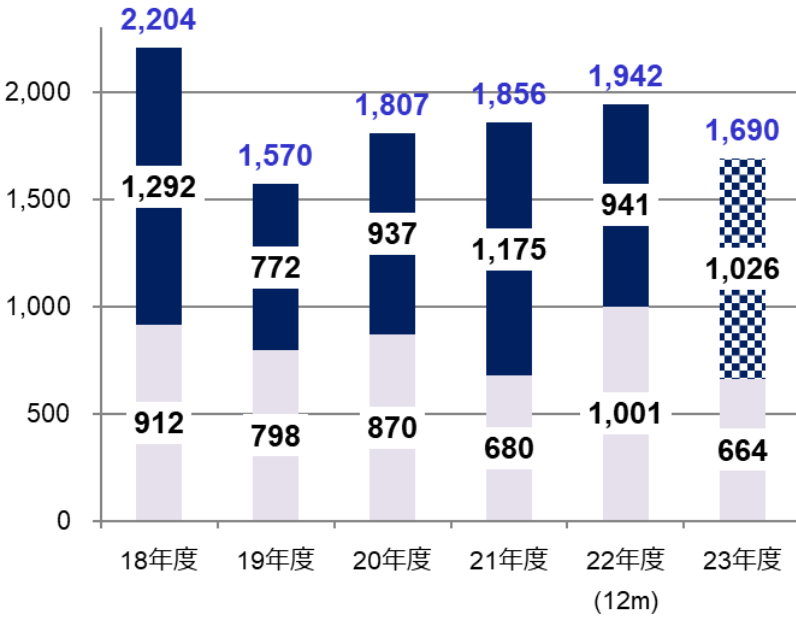
- 23上期：**エネルギープラントは、国内のバイオマス発電設備の大型案件の減少により受注、売上、営業利益ともに減少。その他の事業は、前期に実施した一般廃棄物処理事業譲渡の影響等により受注、売上、営業利益ともに減少。
- 23年度：**エネルギープラントは、海外のバイオマス発電設備の大型案件が増加することから受注は増加。売上は、国内PJの進捗差により減少するが、営業利益は、欧州のPJ採算悪化に歯止めがかかり増加。その他の事業は、新造船の隻数減により受注は減少。受注減少に伴い売上も減少するが、営業利益は改善。

	2022年度		2023年度				23上-22上 増減
	上期 実績 (22.1-22.6)	実績 (22.1-22.12)	上期 実績 (23.1-23.6)	(参考)23年2月 予想 (23.1-23.12)	23年8月 予想 (23.1-23.12)	予想 増減	
単位：億円							
受注高	1,001	1,942	664	1,820	1,690	△130	△338
売上高	929	1,934	813	1,720	1,780	60	△115
営業利益	53	56	4	80	65	△15	△50
営業利益率 (%)	5.8	2.9	0.5	4.6	3.6	-	-
受注残高		2,625	2,475				

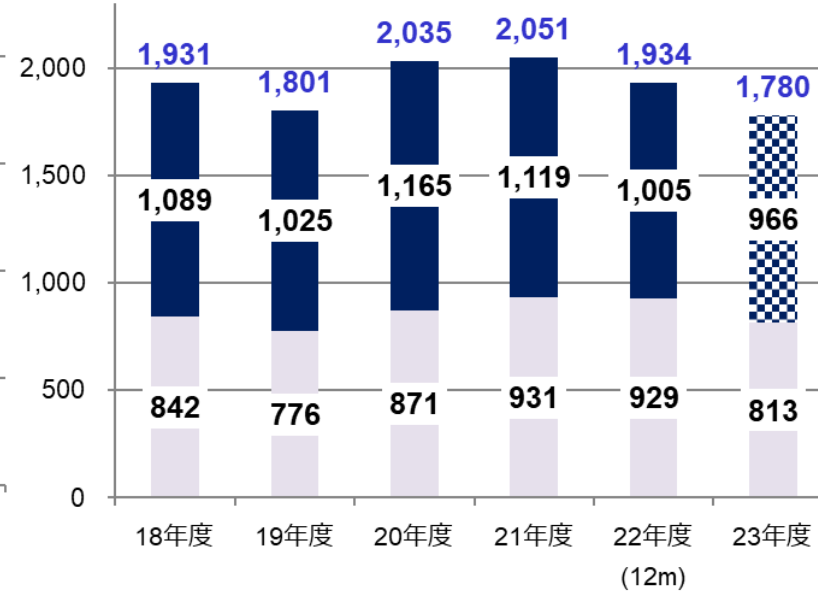
02

エネルギー＆ライフライン

受注高

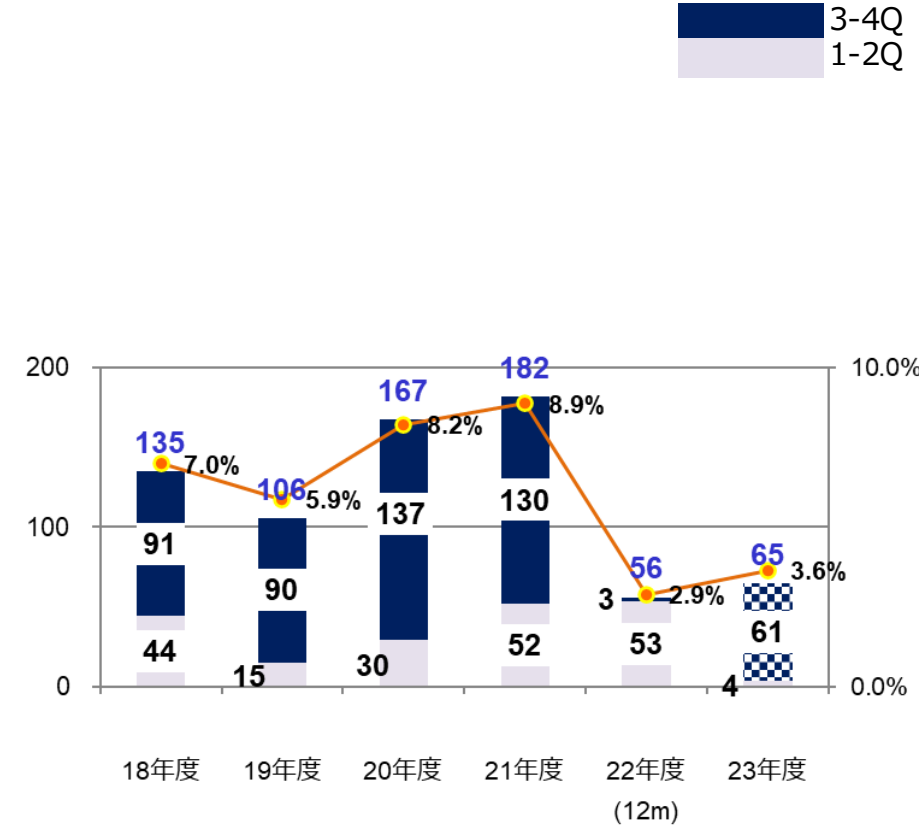


売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)

単位：億円



03

トピックス

03

トピックス① <自動車ボディ・フレーム製造システム STAF>

1. STAF (Steel Tube Air Forming) の特長

- ・鋼管をプレス機の金型にセットし、
「通電加熱→高圧空気注入→成形→焼入れ」の工程で成形加工するシステム。
- ・高強度・高剛性なフランジ（つば状の部品）が一体化されたフレームにより約30%の軽量化が可能。

2. 納入状況

- ・17年 9月 評価設備完成
- ・19年12月 ホンダとドアビーム部品の共同開発開始
- ・22年 5月 試作車メーカー株式会社トピアへシステム納入（世界初）
- ・トピア経由で北米のEVメーカーへ実車搭載

3. 受賞歴

- ・23年4月
日刊工業新聞社主催・第52回日本産業技術大賞 – 審査委員会特別賞 –
革新的な大型産業設備・構造物や先端技術の開発、顕著な成果による
- ・23年5月
自動車技術会主催・第73回自動車技術会賞 – 第14回技術開発賞 –
自動車技術における多大な貢献・功績による



トピア・鈴鹿工場内のSTAFユニット



STAFが適用できる部品



自動車技術会賞 授賞式

03

トピックス② <核医学治療分野での開発>

1. 概要

- ・ 標的アルファ線核医学治療薬の開発に取り組み、アスタチン-211薬剤の実用化を進めるアルファフュージョン株式会社へ出資。
- ・ 当社は大阪大学が進めるアスタチン-211の大量供給施設の整備事業に参画しており、加速器技術および放射性同位元素（RI）の標識合成技術を通して、核医学治療の発展に貢献していく。

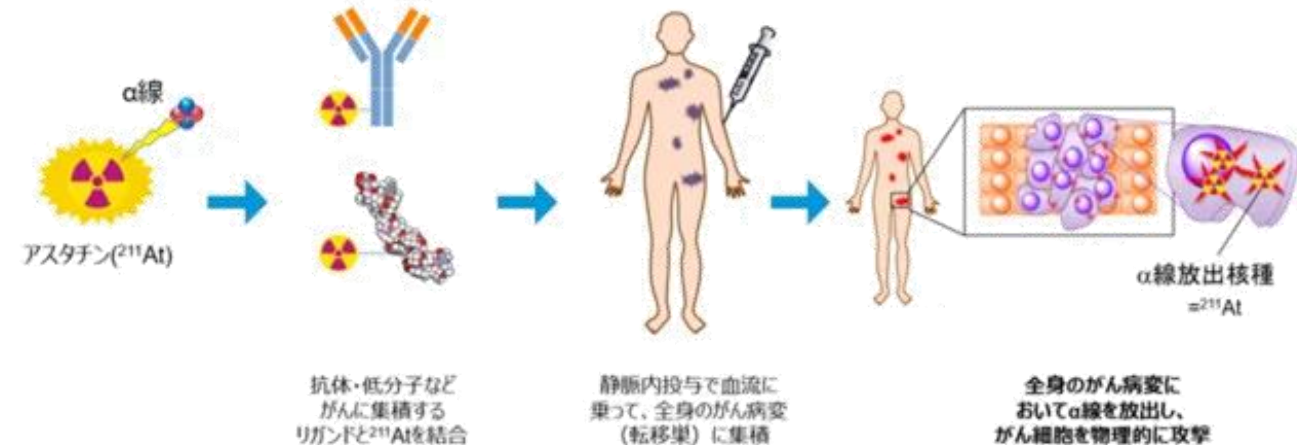
2. 標的アルファ線核医学治療

アルファ線を放出する物質とがんに集積する物質を結合し体内に注入することにより全身のがんを攻撃する治療法。

3. アスタチン-211

- ・ アルファ線を放出する元素。天然に安定同位体が存在しないため、これまで性質があまり解明されていなかった。
- ・ 当社製粒子加速器（サイクロトロン）を用いることで、安定的に製造することが可能。
- ・ 半減期が短く、疾患の標的と結合する薬剤そのものに化学結合させることができるなどメリットも期待される。

標的アルファ線核医学治療のイメージ図



アルファフュージョン株式会社（大阪市）

- ・ 大阪大学および科学技術振興機構（JST）の産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラムの成果に基づき設立された、アスタチン-211創薬の社会実装を担うスタートアップ企業

・ 主な株主：当社、大阪大学ベンチャーキャピタル、日揮株式会社、
国立研究開発法人科学技術振興機構、D3 LLC、東芝エネルギーシステムズ株式会社

04

サステナビリティへの取り組み

04

サステナビリティ推進への取り組み

	2023年度上期 実績	課題
全体	・ 当社グループパーパスの議論開始 ・ GPIF採用ESG投資指数“FTSE Blossom Japan”構成銘柄に初選定	・ 社内の自由闊達な議論の継続 ・ サステナビリティ推進の加速と情報開示の進化
環境 (E)	・ 蓄電システムLAESの商用実証プラントの建設開始 ・ 要素技術・新商品の研究開発拠点、新技術研究所を建設 ・ 自動車軽量化貢献の生産システムSTAFの複数受賞 ・ インターナルカーボンプライシング(ICP)導入	・ リスク、機会評価と対策立案 ・ CO2削減目標、カーボンニュートラル達成に向けた施策立案・実施
社会 (S)	・ 人権デュー・ディリジェンス本格実施 ①自社拠点の技能実習生調査完了 ②海外サプライチェーンの労働環境調査試行 ・ 国内サプライチェーンのリスク評価実施 ・ 男性育休100%宣言※に賛同	・ 調達先との連携強化 ・ 構内請負・派遣労働者の人権尊重浸透 ・ ジェンダーダイバーシティ推進
ガバナンス (G)	・ 女性取締役の就任 ・ BCP基本方針の策定	・ 更なる女性取締役比率の向上 ・ 取締役会の透明性の向上

※株式会社ワーク・ライフバランスの推進による取り組み

04

<E（環境） & S（社会）：新技術研究所の建設>

1. 新技術研究所の特長

■コンセプトは「創発する空間」

- ・自動化デジタイゼーション、環境エネルギー領域を中心に研究開発を進める。
- ・当社保有技術紹介ギャラリーを設置し、パートナー企業との新技術開発も加速させる。
- ・世界中のグループ社員が生き生きと働けるよう交流する場や憩いの場を設置。

■ZEB-Ready認証の取得へ

- ・太陽光発電設備の設置
- ・空調・照明の省エネ性能の向上

■製造所全体の運営機能強化

- ・情報通信機能の拡充
- ・地域の安全・防災拠点機能の発揮

2. 概要

- ①所在地 神奈川県横須賀市
- ②投資額 約100億円
- ③建屋面積 4,100㎡、延べ床面積19,600 ㎡
- ④竣工予定 2025年1月
- ⑤収容人員 約700名



04

<S（社会）：人権デュー・ディリジェンスの本格実施（外国人技能実習生の調査概要）>

1. 国内：外国人技能実習生の労働環境調査

項目	詳細
拠点	国内5拠点 ：千葉製造所、名古屋製造所（3事業部門）、愛媛製造所西条工場
国籍・人数	ベトナム, フィリピン, インドネシア・約 200名
時期	2022年7月～2023年5月
実施者	本社PJとASSC※による共同実施 ※一般社団法人ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン
内容	・書類調査（雇用契約、安全衛生、労働時間等） ・現場調査（労働安全衛生、母国語の配慮状況） ・住居訪問（居住環境の安全確認） ・実習生(27名)と監理団体へのインタビュー
指摘	人権侵害や安全・健康影響が直ちに懸念される 人権問題として特定された事項なし 今後人権課題となる可能性のある発見事項については、事業部門と共に国際基準に沿った契約へ変更予定
対応	フォローアップ会を開催し改善進捗確認

2. 海外：当社Gの製造拠点およびそのエッセンシャルサプライヤー従業員の労働環境調査(各1社)

- ・重大な懸念事項なし

04

<G（ガバナンス）：取締役会の実効性評価結果を踏まえて>

ガバナンスのさらなる充実に向けて

課題① 取締役会の監督機能強化

→ 取締役会の監督機能強化に向けて、執行への権限移譲等の検討をさらに進める。

課題② 長期戦略および事業ポートフォリオ構成の議論加速

→ 長期的な経営のあり方・戦略、ならびに全社および各セグメントにおける事業ポートフォリオ最適構成の議論を、次期中期経営計画策定の中で加速する。

課題③ 資本コストを意識した審議の充実

→ 中期経営計画および長期戦略に対し、セグメント・事業部門毎の最適な KPI※をもとに、目標とするROICをいかにして達成するか計画と戦略を具体化し、次期中期経営計画策定の中で審議を充実させる。

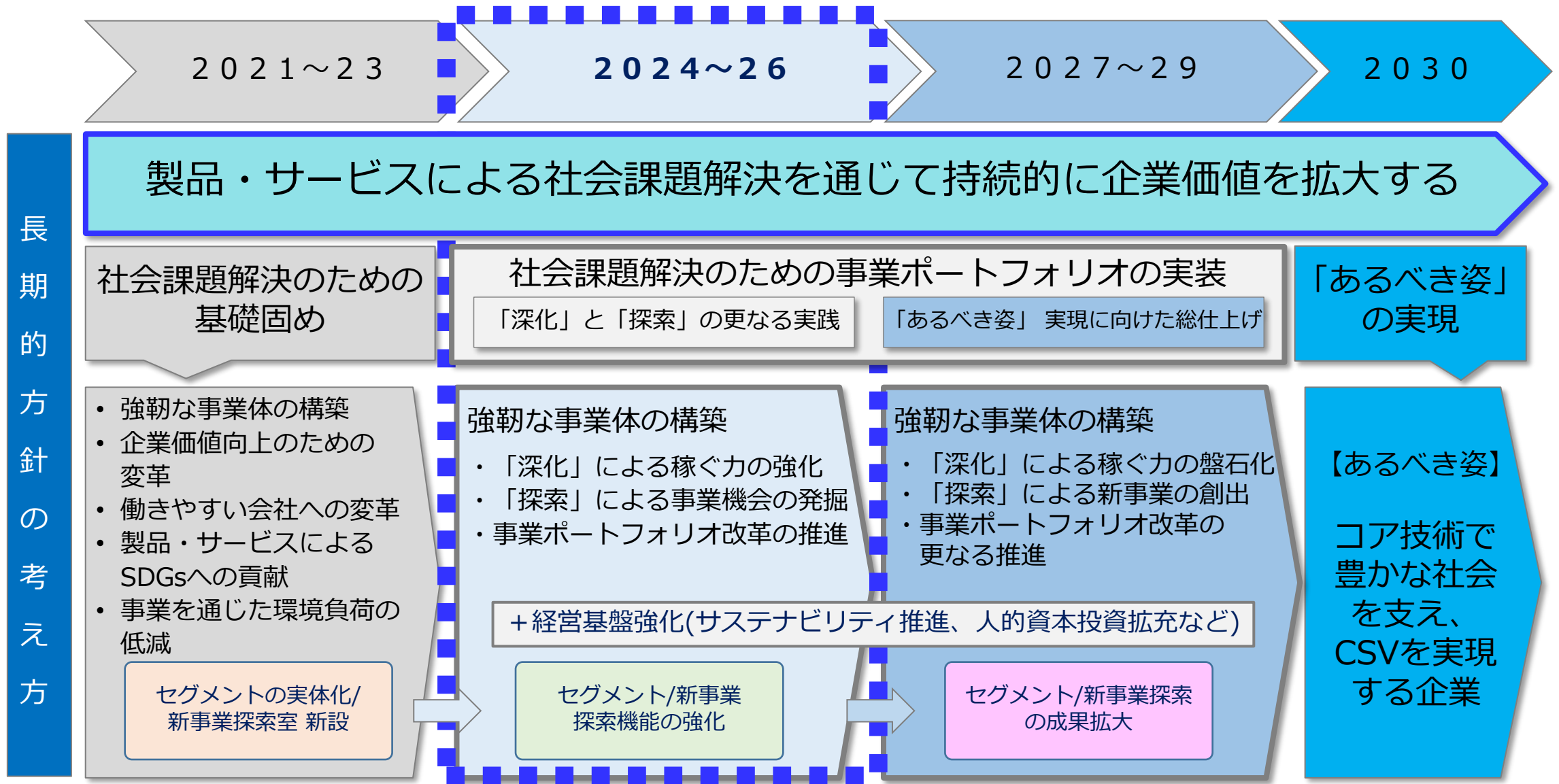
※Key Performance Indicator：重要業績評価指標

課題④ 人的資本および知的財産への投資強化および適正配分に関する議論の深化

→ 人的資本および知的財産への投資の強化および適正配分について、次期中期経営計画策定の中で、方針や重点投資の考え方の議論を深化させる。

05

次期中期経営計画の方向性



財務目標

2030年度
財務目標

営業利益：1,300億円

R O I C：10%以上

既存事業の収益基盤強化とともに、
4つのセグメントのコア技術をベースとした
以下の重点投資領域を伸長し、
新たな価値創造と企業価値向上を目指す

【重点投資領域】

- ・ロボティクス・自動化分野
- ・半導体分野
- ・先端医療機器分野
- ・環境・エネルギー分野

非財務目標

サステナビリティ重要課題

E 環境負荷の低減

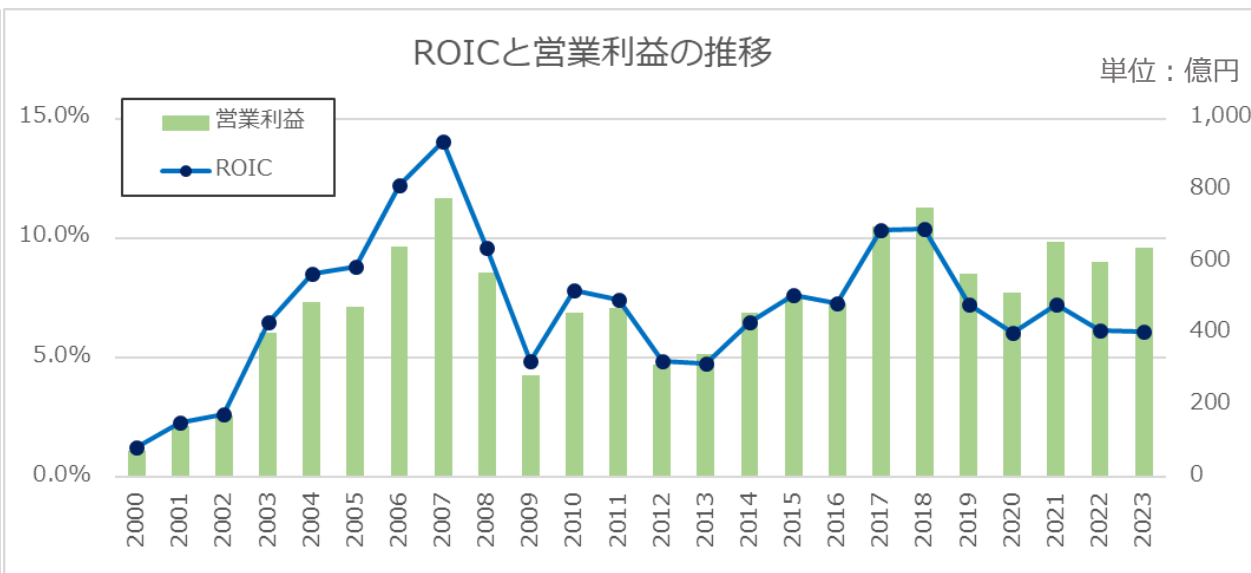
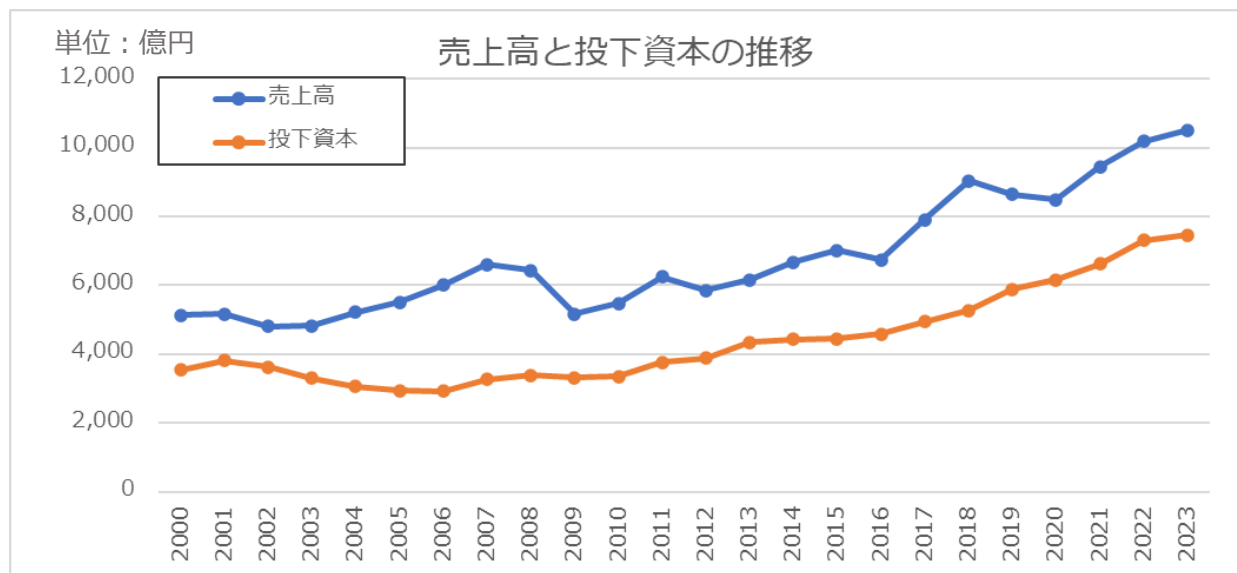
S よりよい暮らし・働き方の実現
従業員の安全・健康・育成
地域との共存・共栄G ガバナンスの強化
製品品質の確保
情報開示の充実

株主価値・企業価値向上を意識した財務・非財務目標を設定

05

当社のROIC経営

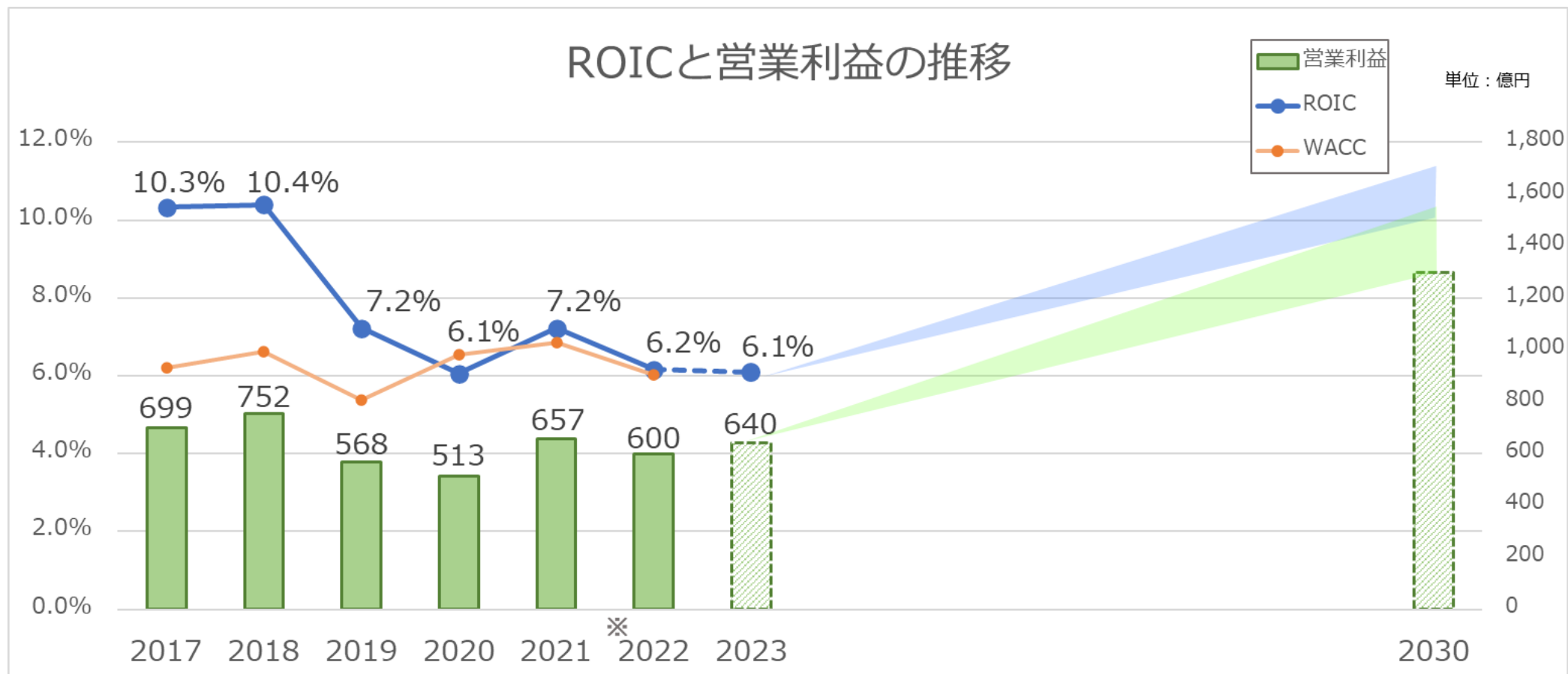
- ・1999～2001年度の中期経営計画「C21」で、よりバランスシートを意識した経営を推進するため、経営指標として「投下資本利益率 ROIC」を導入。
経営目標を「継続的に資本コストを上回る収益力の達成と事業構造の変革」（ROIC>WACC）とした。
- ・2000年9月に事業構造変革として、ROIC目標達成のために造船、産業機械、建設機械の事業構造転換を進めるとともに、成長事業と位置付けた変減速機、プラスチック加工機械、環境事業へ積極投資を行うなど、ポートフォリオ転換を進めた。
- ・以降、2008年度からの2度の中期経営計画では、外部環境に合わせROIC視点で個々の事業ユニットの構造改革を推進。2014年度以降の各中期経営計画では、成長をテーマにトップラインの拡大を進めた。
- ・いかなる経営環境にあっても、当社のポートフォリオ経営の根幹が「継続的に資本コストを上回る収益力の達成」による企業価値の向上にあることは変わりはない。



05

ROICと営業利益目標

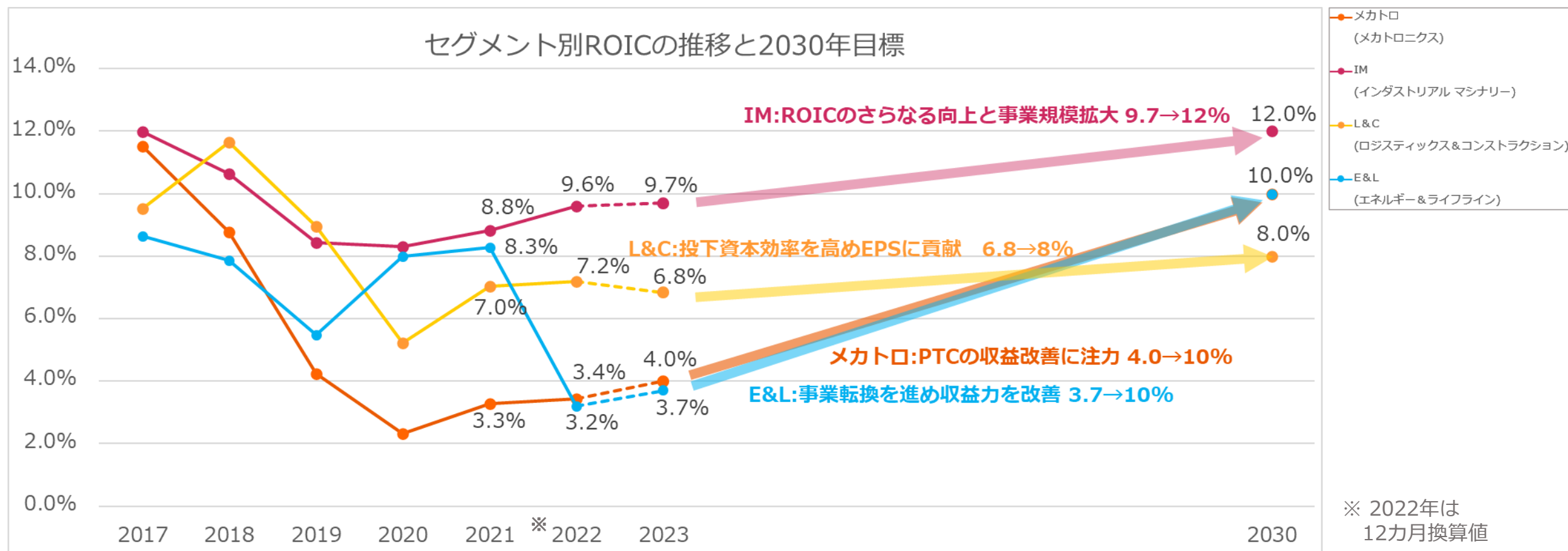
- 「中期経営計画2016」以降、積極的な投資（設備、M&A、研究開発）によりトップライン成長を実現したものの、投下資本が増大するスピードに対し収益力の伸長が十分ではなく、現時点のROICはWACCを十分には上回れていないと認識。
- 2030年度の長期ビジョンにおいて ROIC10%以上、営業利益1,300億円の達成を目指す。



05

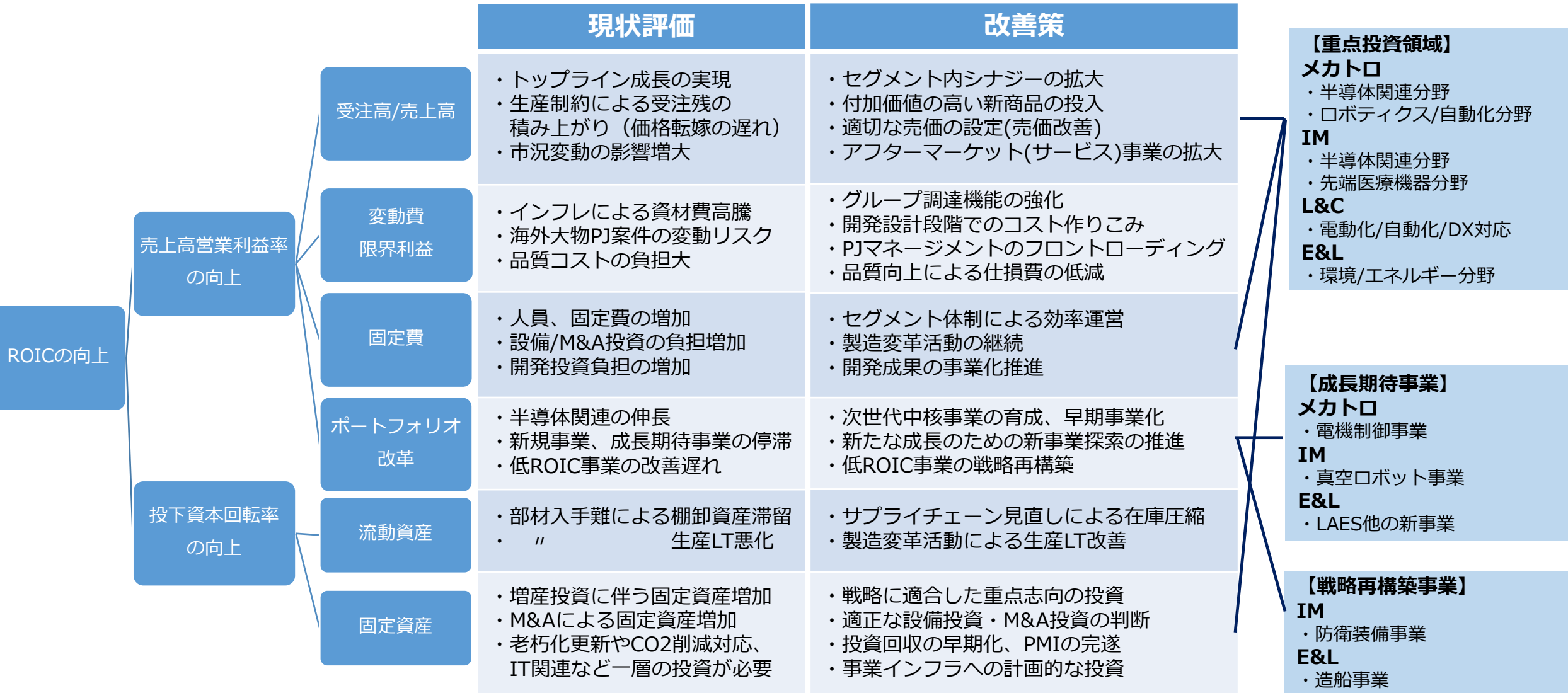
セグメント別ROIC

- ・2030年度までに全社ROICが市場の求めるWACCの水準を上回り、さらには十分なスプレッドを確保すること、全てのセグメントのROICがWACCを上回ることを目標に置き、企業価値の向上に注力する。
- ・現在策定中の次期中期経営計画では、セグメント別ROIC目標を設定。その達成を重点課題とし、それぞれの事業の状況に応じた経営資源の配分を行い、戦略的な事業領域には集中投資を、事業戦略の見直しを要する事業領域は構造改革を実施し、ROICを改善していく。



05

R O I C向上に向けた現状評価と改善策



05

事業ポートフォリオ：各セグメントの役割と方向性

セグメント	役割・位置付け	2030年 目標 営業利益	2030年 目標 ROIC	目指す方向性	重点投資領域
メカトロニクス	高収益で 成長牽引 セグメント	350～ 400億円	10%	・欧州電機制御分野事業への積極投資 ・半導体事業の伸長（M&A含む） ・ロボティクス電機駆動モジュールの展開強化	・ロボティクス・自動化分野 ・半導体分野
インダストリアル マシナリー		400～ 500億円	12%	・グローバル成長市場に先端技術で応え、進化するポートフォリオによる高収益事業体	・半導体分野 ・先端医療機器分野
ロジスティクス& コンストラクション	安定収益を 確保する 基盤セグメント	350～ 500億円	8%	・物流・建設機械の自動化、省力／省人化による社会価値と企業価値の同時実現 ・事業間連携による新市場展開と新製品開発 ・電動や新コンポーネント等の新技術の製品化	・ロボティクス・自動化分野
エネルギー& ライフライン	将来成長 のための 育成セグメント	150～ 200億円	10%	・脱炭素エネルギー、資源循環領域の新事業化 ・セグメント内コンピタンスの結合、シナジー	・環境・エネルギー分野

05

重点投資領域と当社の方向性（ロボティクス・自動化分野）

社会課題



重点投資領域

様々な機械を賢く安全に動かす制御コンポーネント、装置システム

ロボティクス・自動化分野

高効率、省エネを実現する機械（DX活用など）

コア製品

メカトロニクス

電機制御機器



精密制御アクチュエータ



ロボット・AMR



ロジスティクス&コンストラクション

物流・建設機械



05

重点投資領域と当社の方向性（半導体分野）

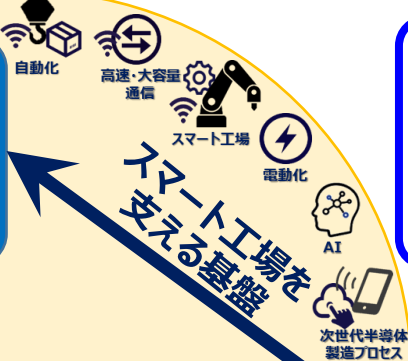
社会課題

顧客の労働生産性・
安全性向上

デジタル社会

ウェルビーイング・
生活の質の向上

環境・気候変動問題

気候変動対策・
循環型社会実現デジタル社会を
支える基盤高効率、低消費電力
半導体によるCO2削減

重点投資領域

イオン注入装置、レーザアニール
装置、MCZ用超電導マグネットを
軸に、新機種も含めた製造装置

半導体分野

クライオポンプ、
真空ロボットに加え、
新規コンポーネント

コア製品

メカトロニクス

半導体前工程装置・機器



インダストリアル マシナリー

ウェハ製造工程装置



半導体前工程装置・機器



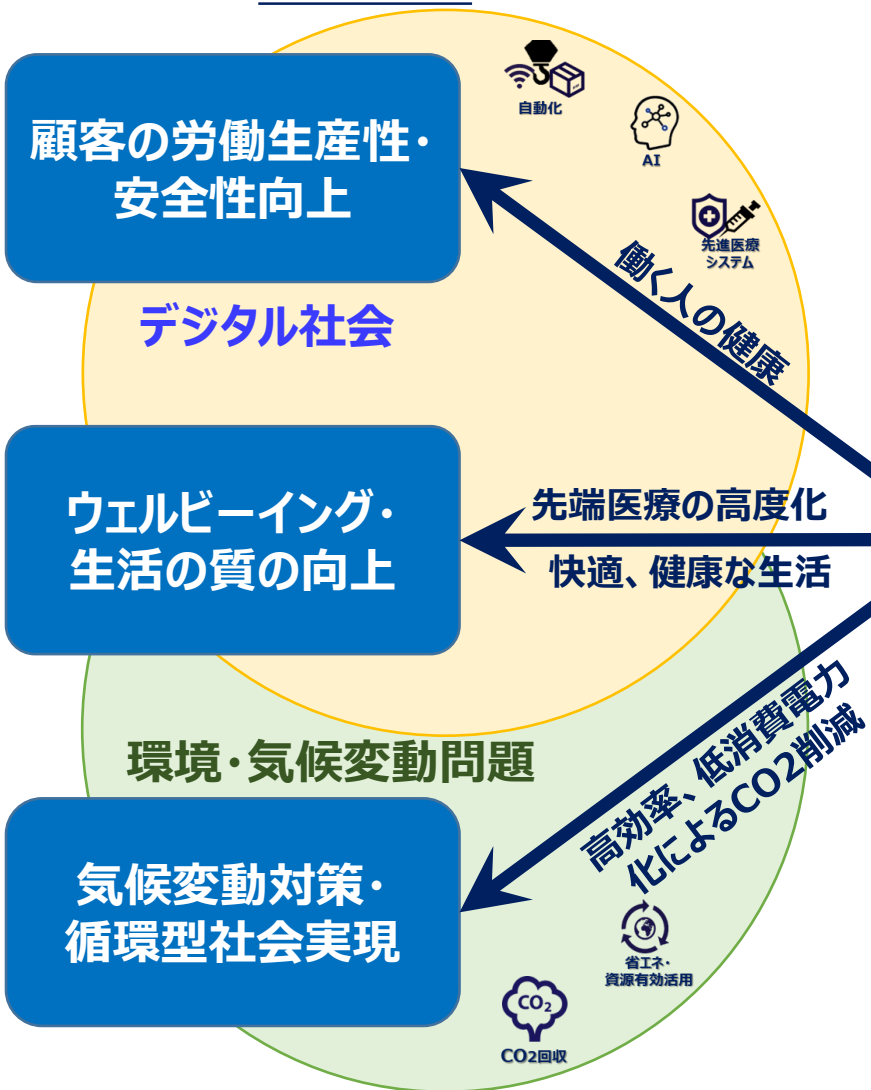
半導体後工程装置



05

重点投資領域と当社の方向性（先端医療機器分野）

社会課題



重点投資領域

コア技術を軸に
先端医療装置、内用療法等
の先端医療への新たな展開

先端医療
機器分野

MRI等の医療装置
コンポーネントの強化

コア製品

インダストリアル マシナリー

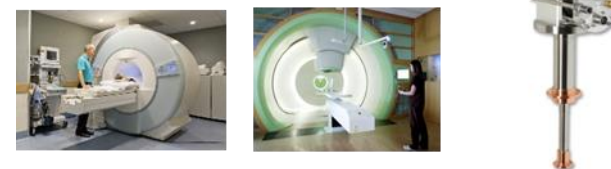
PET診断・治療薬剤関連装置



がん治療装置



医療装置向機器



05

重点投資領域と当社の方向性（環境・エネルギー分野）

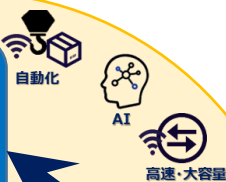
社会課題

顧客の労働生産性・
安全性向上

デジタル社会

ウェルビーイング・
生活の質の向上

環境・気候変動問題

気候変動対策・
循環型社会実現安全、安心な
労働環境の提供サーキュラー
エコノミーの実現
持続可能なエネルギー
の確保脱炭素社会の実現
資源再生による循環型
社会の実現

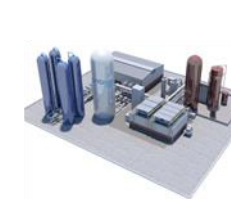
重点投資領域

新エネ技術、エネルギー
回収・貯蔵技術の事業化、
新燃料対応環境・
エネルギー分野CO₂排出からCO₂回収へ
の事業転換と資源循環
関連事業の展開

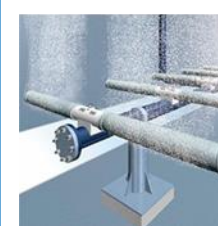
コア製品

エネルギー & ライフライン

エネルギー関連プラント



水処理関連装置



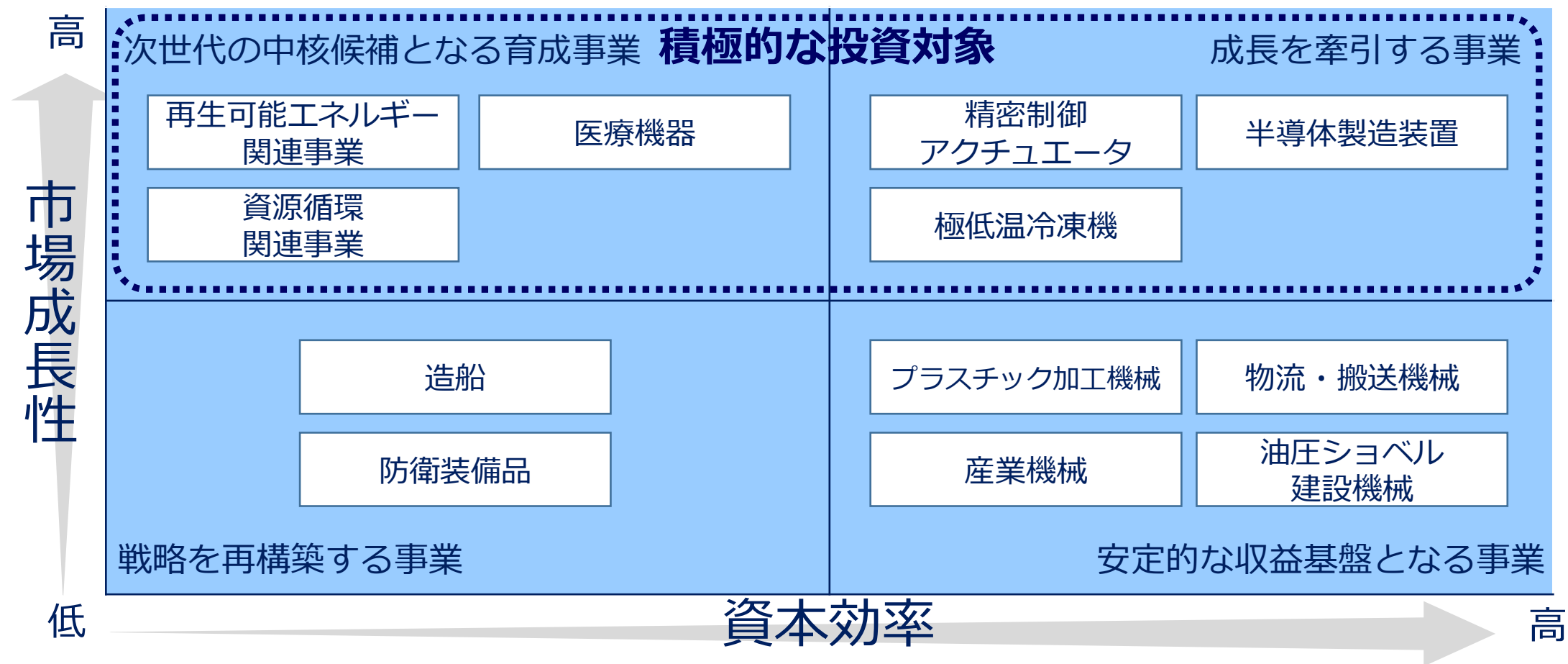
プラント関連装置・機器



05

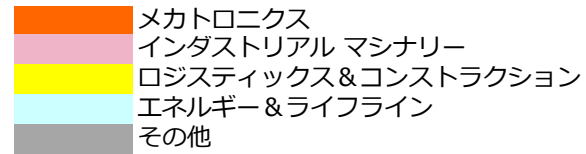
事業ポートフォリオ：改革の推進（事業の位置付け）

- ・メカトロニクス、先端精密機器などのコア技術を活かした事業で全社の成長を牽引する。
- ・将来の成長が期待される再エネ・資源循環・医療機器関連は長期的な視点で投資を継続。
- ・建設機械・産業用機械等で安定的にキャッシュを生み出し、全社的なキャッシュ再配分を行う。



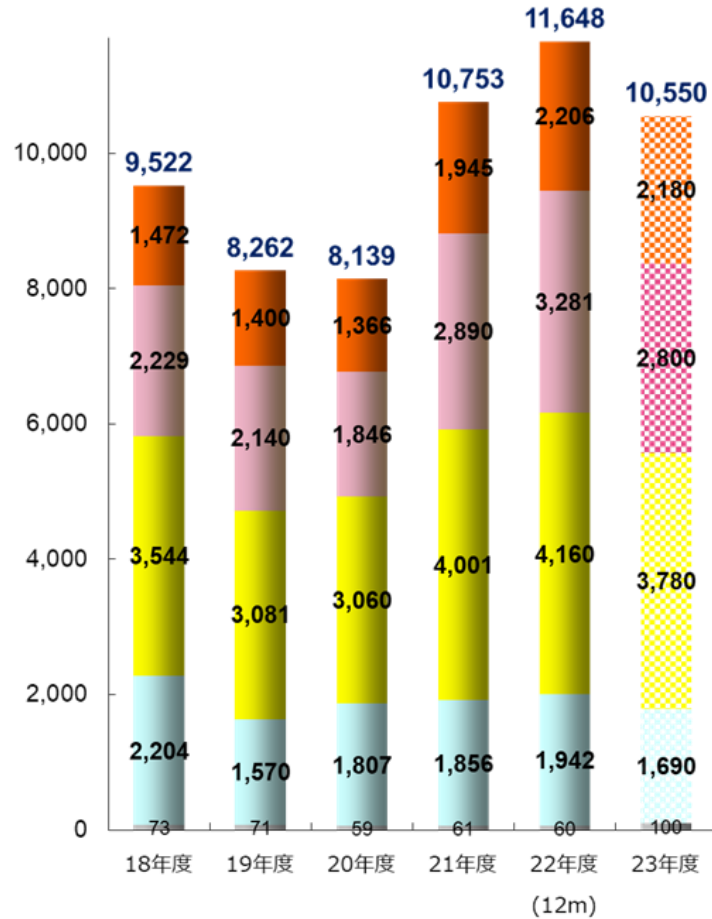
参考資料

財務数値推移(連結)

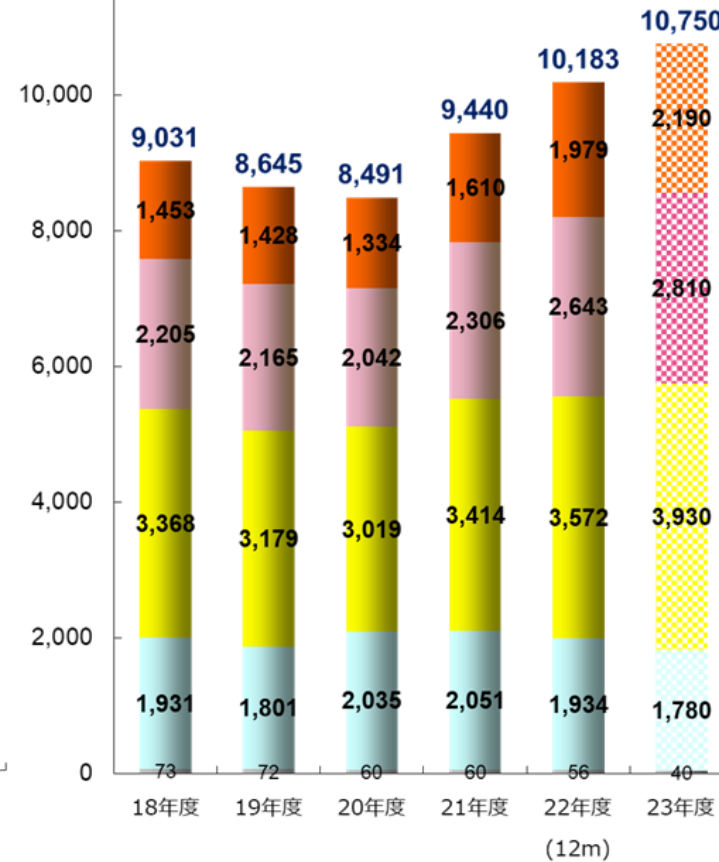


受注高

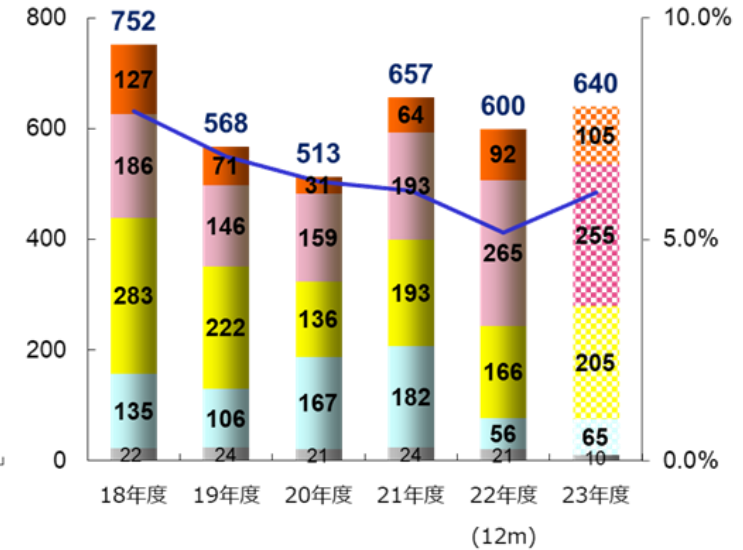
単位：億円



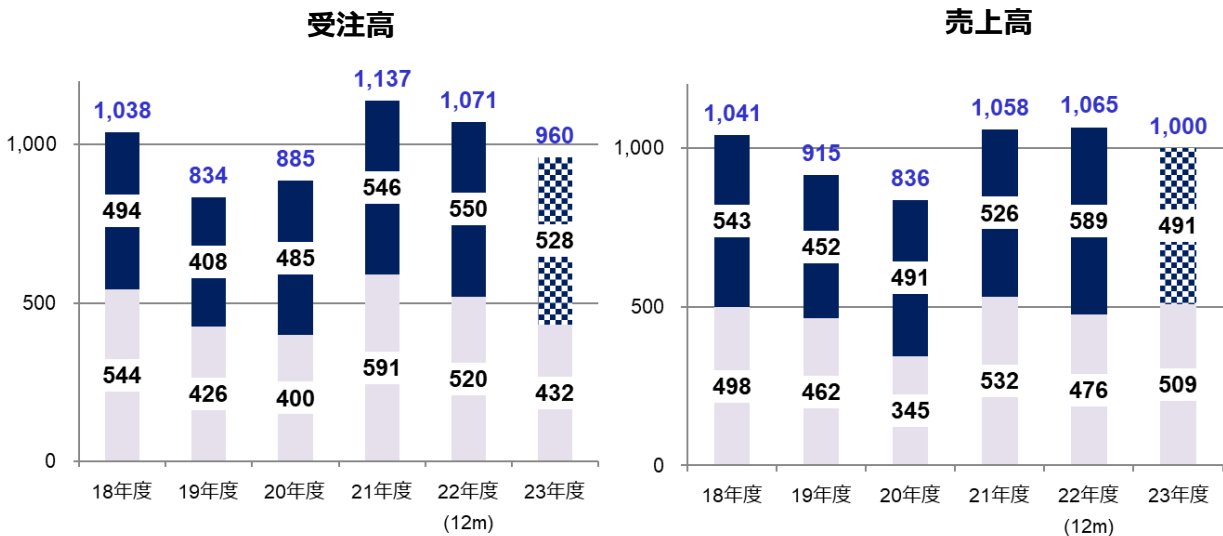
売上高



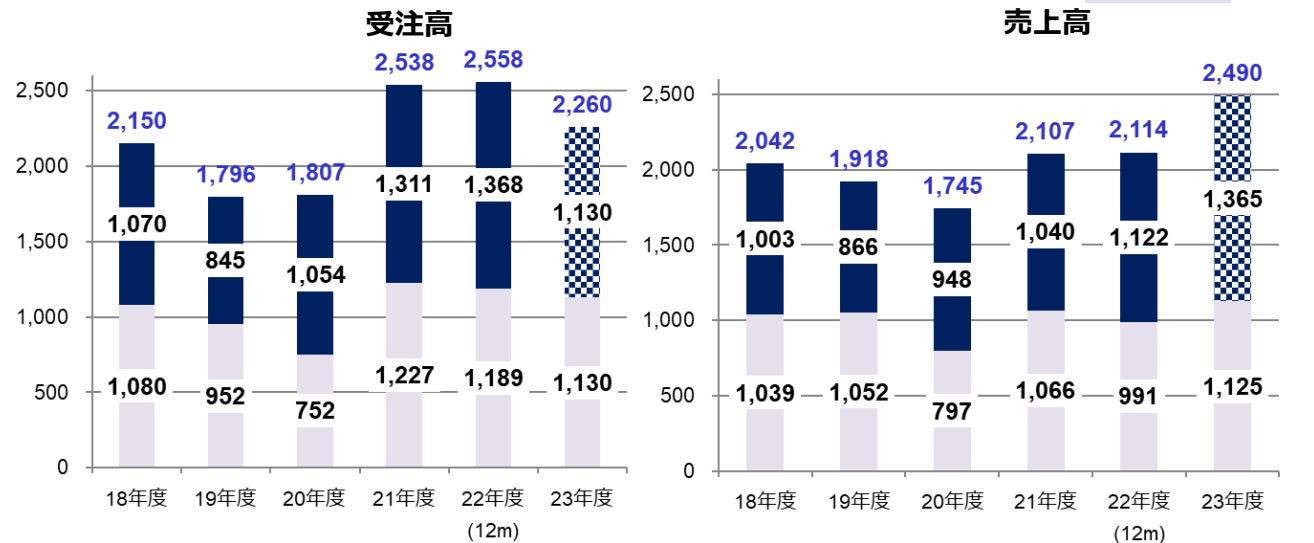
営業利益(左軸)・利益率(右軸)



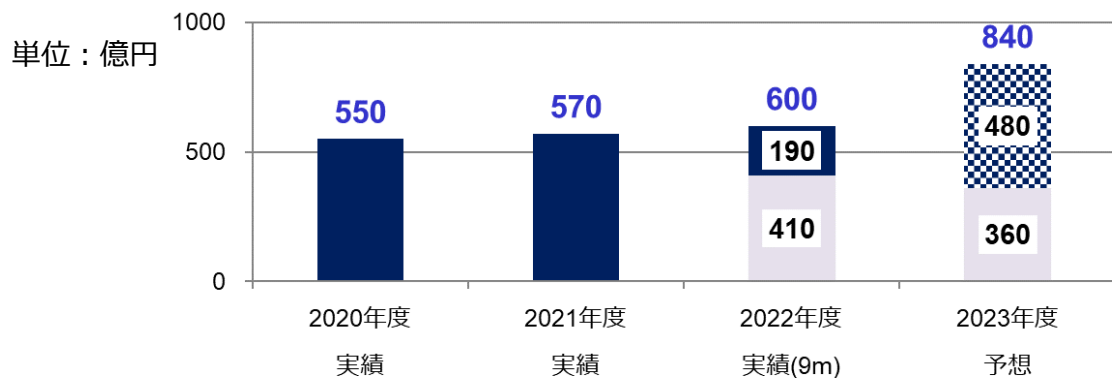
プラスチック加工機械



油圧ショベル



半導体関連事業 売上額合計（概数）



当社が保有する半導体製造向製品とキーテクノロジー

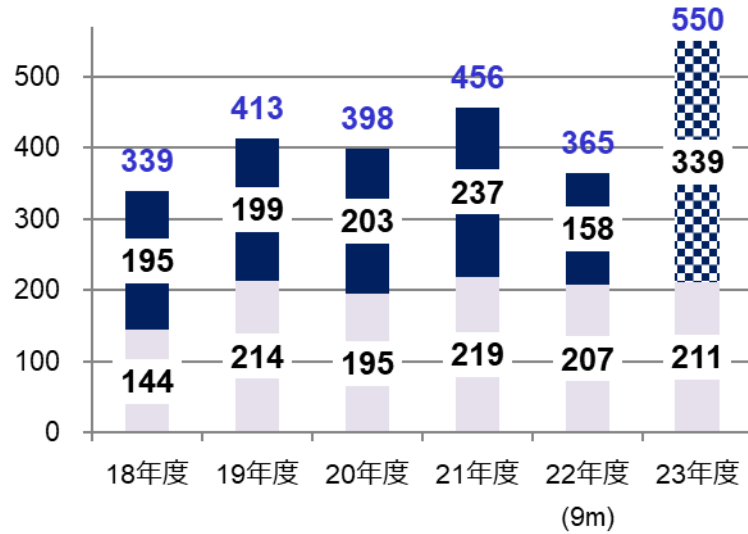
製品	所属セグメント	キーテクノロジーとの関係性（○：大 ○：中）		
		ビーム制御	極低温	真空
レーザーアニール装置	メカトロニクス	◎		
4KGM冷凍機/クライオポンプ	インダストリアルマシナリー		◎	◎
真空ロボット				◎
イオン注入装置		◎		○
MCZ用超電導マグネット			◎	○
イオン照射事業		◎		○



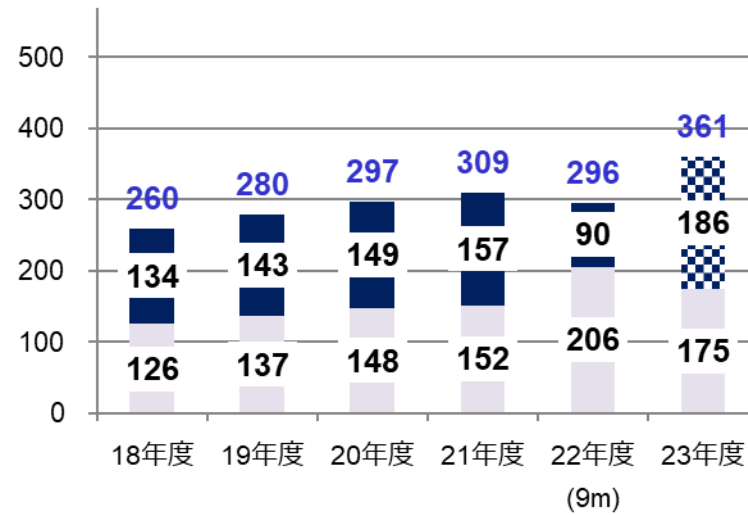
設備投資・減価償却費・研究開発費・人員・為替感応度

設備投資*

*実績はキャッシュアウトベース、
予想は決定ベース



減価償却費

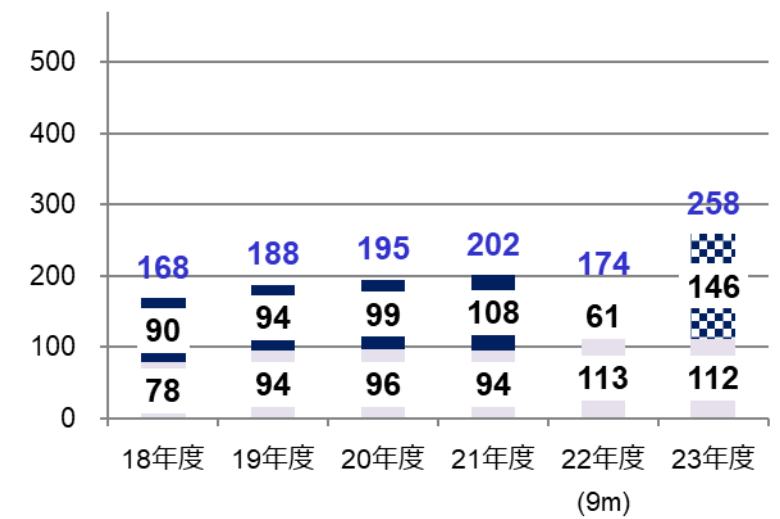


研究開発費*

*実績はPLベース、
予想は決定ベース

単位：億円

3-4Q
1-2Q



人員（各年度終了時点）

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (6月末)
単位：人				
全社計	24,050	24,584	25,541	25,400

為替感応度（2023年度予想）

単位：億円	ドル	ユーロ	合計
1円の変動による営業利益への影響額*	3.3	2.2	5.5

*2023年度想定レートは¥130（ドル）、¥140（ユーロ）



地域別売上高

<為替レート(ドル)¥136> 単位：億円		2023年度 上期 実績（2023.1-2023.6）														
		北米		ヨーロッパ		アジア(除く中国)		中国		その他		海外 計		日本		総売上高
メカトロニクス		213		274		95		80		80		742		327		1,069
	（うち プラスチック加工機械）	58		146		67		126		35		431		77		509
インダストリアル マシナリー		127		215		192		294		38		866		473		1,339
	（うち 油圧ショベル）	356		119		133		34		88		729		396		1,125
ロジスティックス&コンストラクション		674		123		166		34		95		1,093		756		1,849
エネルギー&ライフライン		84		123		85		5		53		349		464		813
その他		-		-		-		0		-		0		30		30
合計 / 売上高比率(%)		1,098 22		735 14		538 11		413 8		266 5		3,050 60		2,050 40		5,101

<為替レート(ドル)¥132> 単位：億円		2022年度 上期(調整後) 実績（2022.1-2022.6）														
		北米		ヨーロッパ		アジア(除く中国)		中国		その他		海外 計		日本		総売上高
メカトロニクス		198		210		82		76		58		624		292		916
	（うち プラスチック加工機械）	56		135		85		109		20		405		71		476
インダストリアル マシナリー		116		187		180		247		25		754		480		1,234
	（うち 油圧ショベル）	262		72		148		72		78		633		359		991
ロジスティックス&コンストラクション		548		83		179		73		87		971		705		1,676
エネルギー&ライフライン		71		81		87		11		104		353		575		929
その他		-		-		-		0		-		0		29		29
合計 / 売上高比率(%)		933 20		561 12		528 11		406 8		273 6		2,702 56		2,082 44		4,784



将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。